

進路便い

第3号

平成28年12月16日発行

熊本県立盲学校 進路指導部

本号では10月19日（水）に行われた「高等部先輩を囲む会」の様子をお知らせします。

板橋先輩のお話から（昭和60年度卒）

卒業後5・6年は山鹿市の病院に勤務し、その後まず南熊本駅前に治療院を開業しました。その後現在の萩原町に移転して、開業から数えると現在開業歴23年になります。

家の周りに鍼灸整骨院や整体なども増えたためか、それとも患者さんが節約されているかは分かりませんが、以前よりは患者さんが減っているようです。

特に、鍼灸整骨院の先生方は、国家資格を持ってしっかり勉強しておられるので、こちらもそれに負けないよう技術を高めると同時に、治療院の明るさや清潔さなどにもいっそう気をつけなければならぬと考えています。

黒川先輩のお話から（平成26年度卒）

阿蘇の「阿蘇マッサージ療院」に勤務しています。週に1～2回熊本市内の自宅に戻ってきます。肩こりや腰痛の患者さんが多いですが、周囲に農業をされている方が多いため、田植えや稲刈りなどの時期には、農作業で腰がガチガチになった高齢者の人などが多く来られます。

仕事を始めた直後は、本当にこの施術でこの料金をもらって良いのだろうかと不安な気持ちになりました。治療院での施術の他に、ホテルでの施術や医療保険を使つての訪問マッサージなども担当しています。

質疑応答

質問：自分の健康を保つために何か工夫をしていますか。

板橋先輩：毎日1時間ほど歩いています。また月に何回かは立田山まで2時間ほどかけて歩いています。

黒川先輩：患者さんに健康のためのアドバイスをするならば自分もメタボではいけないと思い、熊本に戻った時にフィットネスクラブに通っています。

質問：患者さんとのコミュニケーションで気をつけていることはありますか？

板橋先輩：ニュースをよく見るようになりました。患者さんの中には話し好きの人もあるので、聞き上手になるのも大切だと思います。

黒川先輩：ホテルなどでは専門用語を使わないようわかりやすい言葉で話しています。

先輩方からの激励の言葉

板橋先輩：今の時代は整体や整骨院などが増え、また病院も雇ってくれない大変な時代ですが、どこにでも勤められるよう、技術を磨いてがんばってほしいと思います。

黒川先輩：もうすぐ国家試験が近づいてきますが、平常心で頑張ってください。中学生や高校生の皆さんはこれからたくさん勉強しなければなりません、施術者になるならばいい施術者になれるよう頑張ってください。